



Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

① 2月6日：

ITUとGSMアソシエーション、開発途上国における携帯利用促進で協力

ITU and GSMA join forces to boost mobile access in developing countries

ITUの世界規制体シンポジウム期間中に覚書

Agreement reached during the ITU Global Symposium for Regulators

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/01.html)

2007年2月6日、ITUの世界規制体シンポジウムが開かれていたアラブ首長国連邦のドバイで、ITU事務総局長のDr Hamadoun Touréと GSMアソシエーションの Chief Government & Regulatory Affairs Officerの Mr Tom Phillipは、携帯電話を情報通信技術のアクセス手段として活用していくことで合意した。デジタルディバイドの低減に向けた世界情報社会サミット（2003年ジュネーブ、2005年テュニスで開催）や世界電気通信開発会議（2006年ドーハで開催）での合意の実践として、最貧国及び開発途上国における情報通信技術インフラ構築を目指すもので、次の3点を中心に協力するとしている。

- ・ ICT過疎地域での安価なアクセスを実現する取組への支援：GSMアソシエーションが設けているDevelopment Fundの提供先選定についてITUが協力
- ・ 産業界と政府との協調体制確立：遠隔地域や地方へのユニバーサルサービス提供に向けた法制度の整備や産業投資計画に対するパートナーシップの設立
- ・ 世界の主要産業の業績評価指標など、政策決定にかかわる統計分析データベースの構築

GSMアソシエーションは、ITUが推進するデジタルディバイド低減に向けた新しい取組“Connect the World initiative”のパートナーの一員でもある。

② 2月7日：

ベストプラクティスは産業や消費者に経費削減や革新的な新しいサービスを含む本当の利益をもたらす

Delivering real benefits to industry and consumers including cost reduction and innovative new services

7th Global Symposium for Regulators で、NGNへのイノベーション、投資、手ごろなアクセスを助長する規制フレームワークの構想を奨励するベストプラクティスが示された

7th Global Symposium for Regulators identifies best practices to encourage the design of regulatory frameworks that foster innovation, investment and affordable access to NGN

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/02.html)

世界中から監督機関が集まって7th Global Symposium for Regulatorsがアラブ首長国連邦のドバイで2月5～7日まで開催され、次世代ネットワーク（NGN）への移行を促進するために必要なベストプラクティス・ガイドラインが示された。このシンポジウムは、ITUが組織し、アラブ首長国連邦のTelecommunications Regulatory Authority（TRA）が主催した。民間部門の代表や100の各国規制機関の長やボードメンバーを含む470人を越える参加者が出席した。

「我々のゴールは、規制フレームワークの構想、イノベーション、投資、及びNGNとそれへの手ごろなアクセスを助長すること、NGNに移行しそれによってデジタルディバイドを解消することなどを奨励することである」とITU事務総局長のDr Hamadoun I.Touréは述べた。「我々は、この会合で採択されたベストプラクティスが、革新的な新しいサービスと経費削減を通じてプロバイダと消費者に本当の利益をもたらす可能性を提供できると思う。」

ベストプラクティス・ガイドラインは、ルールの採用・施行を含む明瞭で透明な規制プロセスの原則や技術的に中立でコンバージェンスにより提起された問題に焦点を当て競争力の高いネットワークを準備することなどの重要性を強調し



ている。ガイドラインは、認可、アクセス、相互接続及び相互運用、ナンバリング、NGNアイデンティフィケーション・システム、ユニバーサル・アクセス、サービスの質、消費者意識、セキュリティ及びプロテクションを含むサービス供給のすべての側面に言及している。

ガイドラインは、更に競争と革新に対し過度に規制する障壁が取り除かれることを保証するため、定期的な再評価による制度を規制機関が採用するように求めている。

このベストプラクティス・ガイドラインのフルテキストは以下で入手できる。

http://www.itu.int/newsroom/press_releases/Guidelines.html

E-flash

③ e-flash Issue No.29 (2007年1月)

(出展：<http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/029-jan07.html>)

・ITU-T勧告の無料ダウンロード開始

Trial period for free ITU-T Recommendations starts

2007年初頭から、試行期間中、発行済のITU-T勧告がPDF形式で無料ダウンロードできるようになる。

これは、ITUの活動の透明性と活動への参加の促進のために実施するものであり、特に、開発途上国の積極的参加が期待されている。

・IDマネジメントフォーカスグループ設立

ID management group aims to bring harmony

2006年12月5日、ジュネーブで開かれた「NGNのためのデジタル認証 (Digital Identity) に関するワークショップ」に引き続き、SG17の下にアイデンティティ・マネジメント (IdM) に関するフォーカスグループの設立が決定された。デジタル認証とは、ユーザーやネットワークの機器を認証するもので、その重要性は増しており、このフォーカスグループでは、異なったフレームワークの機器のデジタル認証につい

てその方法を探ることとなる。

・サイバーセキュリティの定義

Cybersecurity defined

SG-17 は、サイバーセキュリティの定義を明確にし、全体像を概観できるような一つの標準を作成し、その承認プロセスを開始した。勧告X.1205は、組織の観点から、セキュリティの脅威を分類し、その脅威や弱点 世に出回っている最も一般的なハッカーのツールなどが紹介されており、様々なネットワークレイヤーにおけるサイバー脅威について言及している。

・SG9、IP Cablecom2を発表

IP Cablecom 2 among SG 9 announcements

SG9は、2006年10月の東京会合において、“broadband IP multimedia services” 及び “next generation digital set top box architectures” を含むいくつかの勧告を承認した。IP Cablecomとは、SG-9が数年前から主導している、ケーブルテレビのネットワーク上のIPの双方向サービスに関するプロジェクトであり、一連の勧告群 (J.160-178) が関係している。IP Cablecom2は、新規の勧告群 (J.360-363、J.365-366) が関係しており、音声、映像、データの統合等を支援するプロジェクトである。

・SG9、IPマルチキャスト勧告を承認

IP Multicast Rec from Study Group 9

SG-9は、近々、IPマルチキャストに関する勧告 (J.283) を承認する。これは、IPベースの画像配信技術として注目されているもので、帯域の効率化により数百万の視聴者に配信できるというものである。

・セットトップボックスの勧告承認

Set-top box Recommendations approved

SG-9は、セットトップボックスの構成に関する三つの勧告を承認した。これらの勧告 (J.290 ~ J.292) は、画像、音声、データを含むマルチサービスの配信に関する技術及び構成について、一歩進んだ内容となっている。



・ホームネットワーキングの仕様改訂

New Home Networking Spec

SG-15は、ホームネットワーキングの仕様の改訂を承認した。これは、現在のITU-T勧告G.9954の改訂であり、家庭へのネットワーク用回線として、これまでの同軸ケーブルに加え電話回線の利用を可能にし、回線容量を320Mbit/sに増加したものである。また、VDSLを現状の標準で提供されるADSL、POTSやブロードバンドTVとともに使用することもできるようになっている。

・SG-16で新たな動き

New work topic starts in Study Group 16

SG-16は、“generic sound activity detection (GSAD)”の研究を開始する。VAD (Voice activity detection) 技術は、帯域内の音声信号で必要なものと必要でないものを区別する方法として、回線多重装置等、通信ネットワークで広く用いられている。しかし、VADは、マルチメディアに対応していないことやネットワークごとに個別のアルゴリズムが使わ

れていることなど、情報通信環境の急速な変化に対応しきれないことから、GSADが提案され、研究が開始されることとなった。

・ビデオコーディング検討体制の変更

Reorganisation of ITU videocoding work

SG-16の11月の会合で、ビデオコーディングの検討体制の大規模な変更が行われた。また、課題名が“Video”から“Visual Coding”に変更され、イメージ、グラフィック、コンピュータ・ディスプレイ、医療画像の分野が加えられた。

・次世代ケーブルモデムに対する取組開始

Next generation cable modem work starts

SG-9は、次世代ケーブルモデムの第一歩を記すべく、三つの新勧告 (J.210-J.212) に取り組んでいる。新勧告は、帯域幅の増加、セキュリティの強化、データサービスを提供するネットワーク事業者への高い冗長性などが盛り込まれている。